

で気温は15度以上あったと思う。越冬前の新鮮な個体で、飛翔はとても緩やかであり、よほど近接しない限り飛び立たず、逃げてみてもすぐ近くに静止した。標本は私が保存している。当時撮影した写真はインセクトリウムVOL28, No.1(1991)の表紙に掲載されている。

4・6・1995 1♂ 神戸市中央区諏訪山公園

前回と全く同じ場所で新鮮な雄、当日は晴天で飛来した時刻は12時、気温は25度を超過しており活動が活発でネットするのがようやくであった。標本は私が保存。なお諏訪山公園にはイヌビワが豊富にあるので幼虫の調査を数回試みたが発見できなかった。

(YAMAGUCHI FUKUO 神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

アオドウガネの食草についての

報告(統報その5)

新家 勝

アオドウガネも雑多な植物の葉や花を食べるので、興味を持ち、これまでに12種の食草を本誌で報告したが、今年(1995年8~9月)は、宝塚市光明町の自宅でタニウツギの葉を食べていたのと宝塚市美幸町でトウネズミモチの葉を食べていたのを目撃したので報告する。

(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8番57号)

ヒロヘリアオイラガ幼虫の

食樹についての報告

新家 勝

ヒロヘリアオイラガが阪神間で大発生して話題になったのは、1984年頃だったと記憶する。日本産蛾類大図鑑(講談社 20, Sept. 1982)には、「従来、鹿児島市内だけで採集されていたものが、1979年ごろから大阪や西宮の市街地および北九州

で急に発生したもので、東海地方まで北上している」とあり、「幼虫は、サクラその他いろいろな樹木の葉を食べており、海外では昔からかなりの雑食性であることが知られていた」と記されている。1984年に宝塚市美座二丁目の自宅でも発生し、これまでからいるアオイラガの食べるヤナギ類やカキなどではなく、ツバキ、エノキ、ハナスオウの葉を食べていた。雑食性と聞いていたので、食樹の種類を調べてみようと思ったが、その後、自宅での発生はなくそのままになっていた。今年(1995年8~10月)、宝塚市光明町の自宅とその付近で、多数発生し、サクラ、ボケ、イロハモミジ、ナラガシワ、アベリア、タニウツギ、ヤマボウシ、カキの葉を食べているのを目撃した。

限られた地域での観察結果であるが、前記11種の植物が食樹となったことを報告する。また、今後とも注意して観察し、さらに多くの食樹を確かめたい。

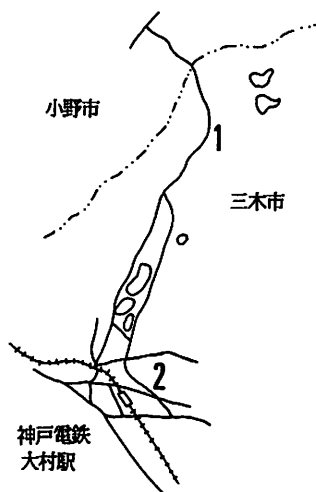
(NIINOMI MASARU 宝塚市光明町8番57号)

ホシミスジの分布拡大例

永幡嘉之

ホシミスジ *Neptis pryri* は、兵庫県南部において比較的近年に分布を拡大した種としてよく知られている。都市部やその周辺では、庭木としてよく利用されるユキヤナギ、シジミバナ、コデマリなどを食樹としている。本種が、本来分布していなかった小さな谷間に分布を広げる様子を実際に観察したので報告する。

観察したのは兵庫県三木市大村である。このの蝶相については過去に筆者が報告したことがあるが、長さ2kmほどの浅く小さな谷の奥に、金剛寺というお寺がある(1)。そこには多くのユキヤナギやシモツケが食栽されているにもかかわらず、1984年から1990年まで7年間住んでいた間に、本種を目撃したことは一度もなかった。この谷の入



り口付近(2)には本種は以前から生息していたようで、1984年9月、当時通っていた平田小学校のユキヤナギの並木で成虫を目撃している。ここから金剛寺までは約2km、間には谷に沿って狭い耕作地が続くほか、人家が数カ所にある。

1992年6月20日、私はすでに三木を離れていたが、久しぶりに大村を訪れてみた。その際、同行の芝直之君が本種の1♂を採集した。その後、1993年8月11日にも新鮮な複数の個体が飛び交っているのを目撃した。最近はあまり足を運ぶことができないているが、数回の観察の状況から、発生するようになったものと推察した。約2kmの分布拡大に、少なくとも8年を要したことになる。

本種の成虫を観察していると、食草への執着が非常に強く、発生地を遠く離れた場所で目撃することは稀である。市街地では近距离に連続的に食草が存在する場合が多いが、農村部や山間部では食草の存在が不連続で飛石的になる。このような場所では、本種の分布拡大能力はそれほど強くないのではないだろうか。また、起伏のある地形も移動を妨げる大きな要因となっていると考えられる。

播州平野では本種は普遍的に分布しているように思われがちであるが、上記のような例もあり、また筆者が三木市で蝶を採集していた1986年頃には、市内各地では個体数もそれほど多くはなかつ

た。現在ではどのような状態になっているのだろうか。

<参考文献>

永幡嘉之(1989) 三木市大村の蝶相 釜城生物1:1
8-58

永幡嘉之(1995) 但馬の蝶3題 IRATSUME 19:1-3
(NAGAHATA YOSHIYUKI 伊那市西箕輪2771-4-13)

ルイスクビナガハムシの採集記録

永幡嘉之

ルイスクビナガハムシ *Liltoiceris lewisii* の兵庫県下における採集記録は高橋(1995)によりまとめられているが、筆者もいくつか採集しているので報告しておく。

養父郡関宮町氷ノ山 氷ノ山越付近 alt.1,220m

1ex., 9.VI.1991

養父郡関宮町氷ノ山大平頭 alt.1,150m

1ex., 27.VI.1993

美方郡村岡町小城 alt.720m

1ex., 10.V.1993

美方郡村岡町本谷奥 alt.600m

1ex., 10.V.1994

美方郡温泉町扇ノ山小ツッコ alt.1,160m

1ex., 30.V.1994

本種の食草と推定されるユリ科の草本にはマイヅルソウ、ユキザサ、チゴユリなどがあり、マイヅルソウは分布が限られるが、他の2種はブナ帯を中心に広く分布している。上記採集個体はいずれも草上に静止中のものであった。

なお、長野県飯山市では、雪どけ直後にブナ林に囲まれた湿原のスゲ類と思われる単子葉植物に非常に多くの個体が集まり、後食を行うのを観察している。県内ではブナ林の林床に生息する種であると考えていたが、機会があれば湿地も調べてみたい。